

2007年8月期第1四半期業績 及び業績見通し

松下 正
株式会社ファーストリテイリング
取締役

1

取締役の松下です。

2007年8月期 第1四半期の業績についてご説明をします。



【連結】 2007年8月期 第1四半期PL

売上高： 1,450億円 (前年同期比 + 20.3%)
経常利益： 258億円 (前年同期比 + 4.5%)

	2006年8月期	2007年8月期 第1四半期	
	第1四半期実績	実績	前年同期比
売上高 (売上比)	1,205 100.0%	1,450 100.0%	+ 20.3%
売上総利益 (売上比)	577 47.9%	689 47.5%	+ 19.4% 0.4p
販管費 (売上比)	338 28.1%	438 30.2%	+ 29.4% + 2.1p
営業利益 (売上比)	238 19.8%	250 17.3%	+ 5.2% 2.5p
経常利益 (売上比)	247 20.6%	258 17.9%	+ 4.5% 2.7p
特別損益 (売上比)	2 0.2%	1 0.1%	- -
当期純利益 (売上比)	138 11.5%	141 9.8%	+ 2.2% 1.7p

単位：億円

2

まず、2007年第1四半期の連結業績についてご説明します。

第1四半期では、売上高は1,450億円、前年同期比20.3%増、
営業利益250億円、前年同期比5.2%増、
経常利益は258億円、前年同期比4.5%増、
当期純利益は141億円、前年同期比2.2%増
となりました。

次のページで、連結の損益状況につき、少し詳しくご説明します。

売上高 1,450億円 (前年同期比 +20.3%、+245億円)

国内ユニクロ事業 新規出店・既存店による売上増 +119億円
 連結子会社増加 キャビン+57億円、プティ ヴィクル+32億円

売上高総利益率 47.5% (前年同期比 0.4p)

国内ユニクロ事業の売上高総利益率の悪化

売上高販管費比率 30.2% (前年同期比 +2.1p)

国内ユニクロ事業 +29億円、連結子会社増加 +48億円
 のれん償却 +7億円

営業利益率 17.3% (前年同期比 2.5p)

経常利益率 17.9% (前年同期比 2.7p)

3

まず売上高は1,450億円と、245億円の増収となりました。

増収の主な要因は、国内ユニクロ事業が119億円、
 今期から通年で連結を開始したキャビンが57億円、プティ ヴィクルが32億円、
 加わったことによるものです。

売上高総利益率は47.5%と前年同期比で0.4ポイント悪化いたしました。
 これは、後ほどご説明をいたしますが、
 国内ユニクロ事業の売上高総利益率が悪化したことが、主な要因です。

販管費は、前年同期比で100億円増えております。
 国内ユニクロの新店増加にともなう人件費などの経費増が29億円、
 連結対象会社が増えたことによるものが48億円となっております。

また、前期に実施したネルソン フィナンスの株式追加取得、プティ ヴィクル、
 キャビンの子会社化などM&Aの実施により、
 のれん代償却額が前年同期比で7億円程度増加しております。

これらの結果、経常利益は前年同期比で11億円増となり、
 対売上高比率は17.9%となりました。

売上高10.9%増、営業利益3.1%増

単位：億円

	2006年8月期	2007年8月期	第1四半期
	第1四半期実績	実績	前年同期比
売上高 (売上比)	1,094 100.0%	1,213 100.0%	+ 10.9%
売上総利益 (売上比)	517 47.3%	554 45.7%	+ 7.1% 1.6p
販管費 (売上比)	288 26.4%	318 26.2%	+ 10.3% 0.2p
営業利益 (売上比)	229 21.0%	236 19.5%	+ 3.1% 1.5p

(注) 国内ユニクロ事業の業績については、2007年8月期より、(株)ユニクロの業績数値を開示しています。この数値と比較対応させるため、2006年8月期の実績値は、2005年9月から2005年10月の2ヶ月間の旧(株)ファーストリテイリング単体ベースの実績に、2005年11月の(株)ユニクロの実績を加算した数値となっております。昨年(2006年)1月12日に発表いたしました、2006年第1四半期スライドに掲載している数値(売上高1,096億円等)には、商業施設事業の数値などの(株)ファーストリテイリング単体(持株会社)業績が加算されています。
(株)ユニクロの2006年8月期業績数値については、本説明スライド24番をご参照ください。

4

次に、国内ユニクロ事業について、ご説明いたします。

国内ユニクロ事業については、
今期より株式会社ユニクロの業績を開示していきます。

株式会社ユニクロの第1四半期の売上高は1,213億円、前年同期比10.9%増、
営業利益は236億円、前年同期比3.1%増の結果となりました。

増収・増益は達成いたしましたが、
売上高総利益率が悪化したことに伴い、
営業利益では計画を下回る結果となりました。

【国内ユニクロ】 売上高の状況

1Q 売上高 1,213億円 (前年同期比 +10.9%)

ユニクロ直営店 前年同期比 33店舗増 (06年11月末 714店舗)

既存店売上高 1Q 前年同期比 +4.3% (06年1Q実績: 前年同期比 1.7%)

客数 前年同期比 +4.2%

9月の新商品・提案の奏功、11月の販促強化

客単価 前年同期比 +0.1%

高付加価値商品の投入

(スキニーボトムス、ヒートテックインナーなど)

【国内ユニクロ事業 既存店前年比】

前年比増減率		2007年8月期					
		9月	10月	11月	9-11月計	12月	9-12月計
既存店計	売上高	+12.6%	4.5%	+8.0%	+4.3%	3.3%	+1.7%
	客数	+9.8%	1.1%	+5.7%	+4.2%	3.9%	+1.6%
	客単価	+2.6%	3.4%	+2.2%	+0.1%	+0.5%	+0.1%

FC店 18店舗を除く

5

国内ユニクロ事業の第1四半期売上高は、10.9%の増収となりました。これは、店舗数が前年同期比で33店舗増加したこと、既存店売上高が前年同期比で4.3%増加したことによるものです。第1四半期にオープンしました大型店は7店舗となっております。

既存店増収率は4.3%増と、計画を上回る数値を達成しましたが、客数が4.2%増、客単価は0.1%増と、主に客数増が寄与しております。

9月は、スキニーボトムスを中心としたUNIQLO MIX(ユニクロ ミックス)のキャンペーンにより、秋冬シーズンをうまく立ち上げることができ、客数を伸ばすことができました。

しかし、10月は気温低下が進まなかったことなどの影響により、前年比で客数・客単価を落とす結果となりました。

11月はフリースキャンペーン、ダウンジャケットキャンペーンを実施したほか、10月の減収を取り戻すために、秋物の処分や、当初計画していなかった値引き販売を実施し、積極的に集客を強化したことにより、前年比8.0%と高い伸び率を達成することができました。

尚、12月の売上高については、すでに発表済みではありますが、前年比マイナスとなっております。

「ニットキャンペーン」など販促商品は順調に推移いたしましたが、12月最終週の天候不順の影響によって、前年比3.3%の減収となりました。

1Q 売上高総利益率 45.7%

(前年同期比 1.6p)

値引率の拡大

- ・集客を目的とした値引き販売
- ・動きの悪かった商品の積極的な値引き販売

つぎに第1四半期の売上高総利益率ですが、前年同期比で1.6ポイント悪化しております。その主な理由は、値引率の拡大によるものです。

期初計画では、今期の粗利益率は前年に比べて改善することを予想しておりましたが、第1四半期は計画以上に値引率が拡大し、前年を下回る結果となりました。

値引率が拡大した要因は、集客を目的とした値引き販売と在庫処分です。

10月に落ち込んだ売上を挽回するために、11月には当初計画になかった「まとめ買いセール」などの値引き販売を実施するなど、チラシ、店頭を使った販促を積極的に行い、集客をはかりました。

また、動きの悪かった商品において積極的な値引きを実施したことで、値引率は拡大する結果となりました。

1Q 売上高販管費率 26.2% (前年同期比 0.2p)

- 人件費率 +0.1ポイント: 採用の拡大による求人費・人件費増など
- 賃借料率 +0.1ポイント: 都心ビルイン型、ショッピングセンターへの出店に伴う賃借料増
- 広告宣伝費率 0.6ポイント: 電波料(テレビ広告関連)の減少

つぎに販管費ですが、前年同期比で約29億円増加しております。

販管費増のうち人件費の増加が約12億円となりましたが、これは主に店舗数増加によるものです。

人件費の対売上高比率は、0.1ポイント増加していますが、これは採用の拡大による求人費などの増加が影響しております。

また、賃借料は前年同期比で約9億円増、対売上高比率は0.1ポイント増加しております。都心ビルイン型、ショッピングセンターなどの店舗が前年に比べて増えたことによるものです。

一方、広告宣伝費は、前年同期比で約1億円減、対売上高比率は0.6ポイント改善していますが、こちらは、テレビ広告などの電波料の支払いが減少したことなどによるものです。

単位: 億円

	ジーユー		ワンゾーン		FRフランス ¹	
		売上比		売上比	[仏国]	売上比
連結対象期間	06/9～06/11		06/9～06/11		06/9～06/11	
売上高	5.3	100.0%	48.1	100.0%	85.7	100.0%
営業損益	3.6	-	3.7	-	21.9	25.6%

	キャビン		アスパジ・ジャパン		リンク・セオリ・HD	
		売上比		売上比		売上比
連結対象期間	06/9～06/11		06/9～06/11		06/9～06/11	
売上高	57.5	100.0%	1.9	100.0%	持分法適用関連会社	
営業損益	4.1	7.3%	0.2	-	2.4	3

- 1 フランス事業の持株会社 FRフランスには、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業等の業績が含まれています。
- 2 のれん勘定にて、ネルソン フィナンス株式追加取得に伴うのれん償却 5.7億円、プティ ヴィクセル株式取得に伴うのれん償却 1.9億円、キャビン株式取得に伴うのれん償却 1.1億円を計上しています。
- 3 営業外損益として、リンク・セオリ・ホールディングスの「持分法による投資利益(06/9～06/11)」2.4億円を計上しています。

次に、主な連結対象会社の第1四半期の業績についてコメントいたします。

まず、10月に1号店をオープンいたしましたジーユーですが、第1四半期の業績は売上高5億円、営業損失3億円でした。出店は順調に推移いたしましたが、売上高は、計画を下回る状況となっています。

ワンゾーンにつきましては、業界の厳しい価格競争により、値引き幅が拡大し、利益面では前年を下まわる結果となりました。

次にFRフランスの業績ですが、売上高85億円、営業利益21億円と、計画を上回る数値を達成することができました。FRフランスの主力の「コントワー・デ・コトニエ事業」は、第1四半期の既存店売上高が前年同期比約2割増収、全店ベースでは約4割増収と、昨年好調だった売上をさらに上回るペースで推移いたしました。日本を含んだベースでの第1四半期の実績は、売上高が53億円、営業利益が18億円でした。

また、「プリンセス タム・タム事業」も好調で、売上高32億円、営業利益4億円を計上しております。

キャビンにつきましては、昨日、2007年2月期の第3四半期累計の業績開示がありました。9～11月の3ヶ月間の業績としては、売上高57億円、営業利益4億円となっております。

単位：億円

	UNIQLO (U.K.)		FRJS		UNIQLO USA		FRL Korea		UNIQLO H.K.	
	【英国】	売上比	【中国】	売上比	【米国】	売上比	【韓国】	売上比	【香港】	売上比
連結対象期間	06/9 ~ 06/11		06/7 ~ 06/9		06/9 ~ 06/11		06/9 ~ 06/11		06/9 ~ 06/11	
売上高	10.1	100.0%	3.6	100.0%	7.4	100.0%	12.1	100.0%	2.9	100.0%
営業損益	0.1	1.6%	0.1	-	5.6	-	1.0	8.5%	0.3	13.2%

続きまして、海外ユニクロの第1四半期の業績ですが、中国、米国、韓国、香港はおおむね計画通りに推移しており、英国が利益面で若干計画を下回っております。

11月10日にオープンいたしましたニューヨーク・ソーホーのグローバル旗艦店は、クリスマス商戦も順調で、計画通りの売上高を達成しております。

この第1四半期では、オープンに伴う販促費や人件費を計上したことにより、5億円の営業赤字となっておりますが、ほぼ計画通りの数値です。

単位：億円

	2006年8月末	2006年11月末	増 減
総資産	3,796	3,951	+154
流動資産	2,503	2,588	+85
固定資産	1,293	1,362	+69
負 債	1,391	1,477	+85
純資産	2,404	2,474	+69

10

次に第1四半期の連結バランスシートのご説明をさせていただきます。

2006年8月末との比較では、流動資産が85億円、固定資産が69億円増えたことから、全体の総資産は3,951億円と154億円の増加となりました。

詳細については、次のページでご説明いたします。

【連結】BSのポイント (2006年8月末比較)

現金・預金 及び有価証券 102億円 (1,471億円 1,369億円)

- 【FR・国内ユニクロ】 国内ユニクロ事業の法人税・事業税等の未還付分 125億円
 < 未還付分のBS上の表記 >
 06/8末 未収法人税等 06/11末 未収入金(「その他流動資産」の一部)

受取手形・売掛金の増加 +135億円 (83億円 219億円)

- 【国内ユニクロ】 季節変動要因、クレジット売掛金増加による影響

たな卸資産の増加 +88億円 (428億円 517億円)

- 【国内ユニクロ】 +63億円 【キャビン】 +9億円
- 新規連結会社【ジーユー】 +4億円等

投資有価証券及び出資金の増加 +21億円 (77億円 99億円)

- 【ビューカンパニー】 資本参加(出資比率33.4%)に伴う「関係会社株式」増加 +22億円

まず、現金・預金及び有価証券の合計額は、8月末比で102億円減少しております。
 この主な要因は、国内ユニクロ事業の運営が、株式会社ファーストリテイリングから、株式会社ユニクロに移行したことに伴い、国内ユニクロ事業の法人税などにつき、重複納付などが発生し、その未還付分として125億円ほど生じたためです。
 この未還付分は、2006年12月までに全額還付されております。

次に、受取手形及び売掛金が、8月末比で135億円、前年同期比63億円増加しております。
 こちらは、国内ユニクロにおける季節変動要因と、クレジットカード利用増加に伴う、クレジットカード会社に対する売掛金の増加によるものです。

たな卸資産は、8月末比で88億円増加しております。
 国内ユニクロは、8月末比で63億円、前年同期比で42億円増加しています。
 そのほか、キャビンで8月末比で9億円、新規連結をいたしましたジーユーで4億円増加しております。

最後に、投資有価証券及び出資金が、8月末比で21億円増加しております。
 こちらは主に、2006年11月に、婦人靴専門店を展開するビューカンパニーに資本参加をしたことによるものです。

株式会社ユニクロ 中間期業績予想^(注)

単位: 億円

	2006年2月 中間期 実績	2007年2月 中間期		2007年2月 中間期		
		期初予想	前期比	修正予想	前期比	期初予想比
売上高 (売上比)	2,146 100.0%	2,326 100.0%	+ 8.4%	2,326 100.0%	+ 8.4%	(-)
売上総利益 (売上比)	998 46.5%	1,093 47.0%	+ 9.5% (+ 0.5p)	1,055 45.3%	+ 5.6% (- 1.2p)	3.6% (- 1.7p)
販管費 (売上比)	566 26.4%	633 27.2%	+ 11.9% (+ 0.9p)	633 27.2%	+ 11.9% (+ 0.9p)	(-) (-)
営業利益 (売上比)	432 20.1%	460 19.8%	+ 6.4% (- 0.4p)	421 18.1%	2.6% (- 2.0p)	8.4% (- 1.7p)

(注) 国内ユニクロ事業の業績については、2007年8月期より、(株)ユニクロの業績数値を開示しています。この数値と比較対応させるため、2006年8月期の実績値は、2005年9月から2005年10月の2ヶ月間の旧(株)ファーストリテイリング単体ベースの実績に、2005年11月以降の(株)ユニクロの実績を加算した数値となっております。

(株)ユニクロの2006年8月期業績数値については、本説明スライド24番をご参照ください。

12

ここからは、2007年8月期の業績予想についてご説明します。

まず、国内ユニクロ事業の中間期の業績予想については、第1四半期と12月の実績を勘案し、株式会社ユニクロの営業利益を期初計画の460億円から、421億円へと減額修正しております。

株式会社ユニクロ 通期業績予想^(注)

単位: 億円

	2006年8月通期 実績	2007年8月通期		2007年8月通期		
		期初予想	前期比	修正予想	前期比	期初予想比
売上高 (売上比)	3,936 100.0%	4,302 100.0%	+ 9.3%	4,302 100.0%	+ 9.3%	(-)
売上総利益 (売上比)	1,829 46.5%	2,035 47.3%	+ 11.2% (+ 0.8p)	1,996 46.4%	+ 9.1% (0.1p)	1.9% (0.9p)
販管費 (売上比)	1,140 29.0%	1,270 29.5%	+ 11.4% (+ 0.5p)	1,270 29.5%	+ 11.4% (+ 0.5p)	(-) (-)
営業利益 (売上比)	688 17.5%	764 17.8%	+ 11.0% (+ 0.3p)	725 16.9%	+ 5.4% (0.6p)	5.1% (0.9p)

(注) 国内ユニクロ事業の業績については、2007年8月期より、(株)ユニクロの業績数値を開示しています。この数値と比較対応させるため、2006年8月期の実績値は、2005年9月から2005年10月の2ヶ月間の旧(株)ファーストリテイリング単体ベースの実績に、2005年11月以降の(株)ユニクロの実績を加算した数値となっております。

(株)ユニクロの2006年8月期業績数値については、本説明スライド24番をご参照ください。

株式会社ユニクロの2007年8月期の通期予想は、
修正後の上期予想に、下期の期初予想を足し合わせました、
売上高4,302億円、前期比9.3%増、
営業利益は725億円、前期比5.4%増と
させていただきます。



【国内ユニクロ】2007年8月期予想
株式会社ユニクロ 業績予想の前提

	2006年8月期			2007年8月期			前期比		
	実績			予想					
売上高	3,936 億円			4,302 億円			+ 9.3%		
既存店伸び率	+ 0.7%			+ 1.4%			+ 0.7p		
売上高総利益率	46.5%			46.4%			0.1p		
通期	46.5%			45.3%			1.2p		
上期	46.4%			47.6%			+ 1.2p		
下期									
出退店数(直営店)	出店	退店	純増	出店	退店	純増	出店	退店	純増
通期	84	45	+39	82	45	+37	2	+0	2
(店舗)									
大型店	4	0	+4	20	0	+20	+16	0	+16
標準店等	71	45	+26	57	45	+12	14	+0	14
専門店	9	0	+9	5	0	+5	4	+0	4
上期	44	26	+18	38	25	+13	6	1	5
大型店	4	0	+4	10	0	+10	+6	0	+6
標準店等	35	26	+9	28	25	+3	7	1	6
専門店	5	0	+5	0	0	0	5	0	5
下期	40	19	+21	44	20	+24	+4	+1	+3
大型店	0	0	+0	10	0	+10	+10	0	+10
標準店等	36	19	+17	29	20	+9	7	+1	8
専門店	4	0	+4	5	0	+5	+1	0	+1

ユニクロ直営店出店数のうち、標準店等にエキナカ・エキチカのユニクロ小型店も含まれます。
 また専門店には、ウィメンズインナー専門店「BODY by UNIQLO」、キッズ専門店「ユニクロ キッズ」を含みます。

国内ユニクロの2007年上期の既存店売上高は前年比1.5%増、
 下期1.2%増とし、通期で1.4%増と変更してありません。

売上高総利益率については、上期を 45.3%、
 前年同期比1.2ポイントのマイナスに、修正しております。

また、2007年8月期の出退店数につきましては、
 上期において期初計画よりも、
 出店が1店舗、退店が4店舗増加する予定ですが、
 退店のうち2店舗は、増床などに伴う一時的な閉店であり、
 下期に再びオープンする予定です。
 従いまして、通期の純増数を、期初計画の38店から37店に
 変更しております。

なお、上期に予定していた大型店の出店10店舗は、
 12月までにすべて完了しています。



【連結】2007年8月期予想 連結対象会社

単位：億円

	ジーユー		ワンゾーン		FRフランス ¹	
		売上比		売上比	[仏国]	売上比
連結対象期間	06/9～07/8		06/9～07/8		06/9～07/8	
売上高	53.1	100.0%	225.0	100.0%	339.5	100.0%
営業損益	9.2	-	3.6	-	57.3	16.9%

	キャビン		アスバジ・ジャパン		リンク・セオリ・HD		ビューカンパニー	
		売上比		売上比		売上比		売上比
連結対象期間	06/9～07/8		06/9～07/8		06/9～07/8		06/12～07/8	
売上高	229.1	100.0%	11.2	100.0%	持分法適用関連会社		持分法適用関連会社	
営業損益	8.2	3.6%	0.5	-	5.5	2	0.0	3

- 1 フランス事業の持株会社 FRフランスの数値には、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業等の業績が含まれています。
- 2 営業外損益として、リンク・セオリ・ホールディングスの「持分法による投資利益(06/9～07/8)」5.5億円の計上を予想しています。
- 3 営業外損益として、婦人靴専門店を展開するビューカンパニーの「持分法による投資損益(06/12～07/8: 9ヶ月間)」0.0億円の計上を予想しております。
(内訳: 同社期間損益相当 0.7億円、 同社株式取得に伴う投資差額 0.7億円)
- 4 のれん償却については、連結販管費として、2007年8月通期で総額35億円の計上を予想しています。

15

次に、主な連結対象会社のうち、ジーユー、ワンゾーン、FRフランス、キャビンの通期の業績予想を変更しております。

ジーユーは、売上高96億円、営業損失2億円の期初予想を、売上高53億円、営業損失9億円に修正いたします。ジーユーの現状と今後の施策につきましては、別のページで詳しくご説明いたします。

ワンゾーンの通期の業績予想につきましては、売上高225億円、営業利益1億円の期初予想を、売上高225億円、営業損失3億円に修正いたします。商品や店舗オペレーションの改革の成果は、まだ出ておりませんが、需要最盛期である3～4月に向け、店舗立地にあわせた商品構成の見直しをすすめ、損失を最小限に抑えていきます。

コントワー・デ・コトニエ事業とプリンセス タム・タム事業を傘下にもつ、FRフランスの業績予想は329億円、営業利益52億円の期初予想を、売上高339億円、営業利益57億円に増額修正しております。こちらは、好調であるコントワー・デ・コトニエのヨーロッパ事業の上期業績を反映させたことによるものです。

キャビンは、昨日発表された業績修正を踏まえ、若干変更をしております。こちらには、ファーストリテイリングの連結決算期にあわせた数値で表示しており、売上高226億円、営業利益9億円の予想から、売上高229億円、営業利益8億円へと修正いたしました。

なお、この第2四半期より、ビューカンパニーが持分法適用関連会社として、連結業績に加わる予定です。

単位：億円

	UNIQLO (U.K.)		FRJS+FRCN		UNIQLO USA		FRL Korea		UNIQLO H.K.	
	[英国]	売上比	[中国]	売上比	[米国]	売上比	[韓国]	売上比	[香港]	売上比
連結対象期間	06/9～07/8		06/7～07/6		06/9～07/8		06/9～07/8		06/9～07/8	
売上高	38.7	100.0%	21.5	100.0%	34.0	100.0%	43.5	100.0%	19.1	100.0%
営業損益	1.5	3.9%	0.4	2.0%	7.9	-	1.6	3.8%	3.2	17.2%

中国におけるユニクロ事業は、2007年8月期中に、FRJS「迅銷(江蘇)服飾有限公司」から、新会社であるFRCN「迅銷(中国)商貿有限公司」へ移行される予定です。

業績予想については、FRJSとFRCNの業績予想数値の合算を掲載しております。

海外ユニクロ事業については、中国、香港、韓国の業績は、順調に推移しており、期初予想からの変更はございません。

海外ユニクロ事業合計で、売上高約160億円、営業損失で1億円程度の予想をしております。

	2006年2月 中間期 実績	2007年2月 中間期		2007年2月 中間期		
		期初予想	前期比	修正予想	前期比	期初予想比
売上高 (売上比)	2,386 100.0%	2,820 100.0%	+ 18.2%	2,820 100.0%	+ 18.2%	(-)
売上総利益 (売上比)	1,124 47.1%	1,365 48.4%	+ 21.4% (+ 1.3p)	1,327 47.1%	+ 18.0% (0.1p)	2.8% (- 1.3p)
販管費 (売上比)	669 28.0%	880 31.2%	+ 31.5% (+ 3.2p)	885 31.4%	+ 32.3% (+ 3.3p)	+ 0.6% (+ 0.2p)
営業利益 (売上比)	455 19.1%	485 17.2%	+ 6.5% (- 1.9p)	442 15.7%	2.9% (- 3.4p)	8.9% (- 1.5p)
経常利益 (売上比)	471 19.8%	485 17.2%	+ 2.8% (- 2.6p)	447 15.9%	5.3% (- 3.9p)	7.8% (- 1.3p)
特別損益 (売上比)	7 0.3%	5 0.2%	- (-)	7 0.3%	- (-)	- (-)
当期純利益 (売上比)	265 11.1%	270 9.6%	+ 1.7% (- 1.5p)	240 8.5%	9.6% (- 2.6p)	11.1% (- 1.1p)

以上の変更を踏まえ、
 中間期の連結業績予想については、
 売上高2,820億円、前期比18.2%増、
 経常利益は447億円、前期比5.3%減、
 当期純利益は240億円、前期比9.6%減に、変更をいたします。

なお、特別損益は、期初予想比、若干マイナスとなっておりますが、
 こちらは、国内ユニクロで計画外の退店、
 および一部店舗の改装に伴い、
 2億円ほど発生する固定資産除却損を、織り込んだことによるものです。

【連結】 2007年8月期 業績予想

単位：億円

	2006年8月期 実績	2007年8月期		2007年8月期		
		期初予想	前期比	修正予想	前期比	期初予想比
売上高 (売上比)	4,488 100.0%	5,355 100.0%	+ 19.3%	5,325 100.0%	+ 18.6%	0.6%
売上総利益 (売上比)	2,124 47.3%	2,610 48.7%	+ 22.9% (+ 1.4p)	2,562 48.1%	+ 20.6% (+ 0.8p)	1.8% (0.6p)
販管費 (売上比)	1,420 31.7%	1,806 33.7%	+ 27.1% (+ 2.1p)	1,804 33.9%	+ 27.0% (+ 2.2p)	0.1% (+ 0.2p)
営業利益 (売上比)	703 15.7%	804 15.0%	+ 14.3% (0.7p)	758 14.2%	+ 7.7% (1.4p)	5.7% (0.8p)
経常利益 (売上比)	731 16.3%	805 15.0%	+ 10.1% (1.3p)	764 14.3%	+ 4.5% (1.9p)	5.1% (0.7p)
特別損益 (売上比)	3 0.1%	10 0.2%	- (-)	12 0.2%	- (-)	- (-)
当期純利益 (売上比)	404 9.0%	445 8.3%	+ 10.0% (0.7p)	410 7.7%	+ 1.4% (1.3p)	7.9% (0.6p)

また、通期の連結業績予想については、
 売上高5,325億円、前期比18.6%増、
 経常利益は764億円、前期比4.5%増、
 当期純利益は410億円、前期比1.4%増といたします。

配 当 金

2007年8月期 年間配当金 140円を予想

	2006年8月期		2007年8月期 (予想)	
	中間	期末	中間	期末
1株あたり配当金	130円	65円	140円	70円

業績や資金需要に大きな変動が生じた場合、配当金額を変更することがあります。

2007年8月期の配当金については、業績予想を修正いたしましたが、年間140円を変更しておりません。

出店は上期計画の25店舗出店を12月に完了

第1四半期売上は未達、通期の予算を修正

- ・ 客数が想定を下回った
- ・ 売上はウイメンズ商品の割合が想定より大きかった
- ・ 低価格商品、旬のファッション商品は好調に推移

今後の施策

- ・ 商品構成を見直し、ウイメンズ商品を拡充
- ・ ジーユー商品の強みを訴求し競合と差別化
 - ベーシック商品はコア商品をさらに低価格に
 - ファッション商品はウイメンズ中心に強化
- ・ 売上に応じた販管費の削減により収益性向上
- ・ 雑誌などチラシ以外の媒体の活用による販促強化



20

次に、ジーユーの業績修正の背景について補足させていただきます。

ジーユーは、2006年10月13日に南行徳の一号店をオープンして以来、順調に出店をすすめて、11月末までに19店舗、12月末までに上期計画の25店舗の出店を完了いたしました。

一方、売上につきましては、第1四半期では未達となりました。当初の計画と比べ、客数が想定を下回り、客単価も伸び悩んでいる現状です。売上は想定以上にウイメンズ商品の割合が大きく、商品構成に調整が必要です。低価格商品、ファッション商品は好調に推移しているものの、ジーユーとしての強みを訴求しきれていないなど、課題も明らかになってきました。そこで、第1四半期の業績を踏まえ、予算を修正すると同時に、商品構成や価格戦略、販売促進活動に修正を加えていく計画です。

今後の施策としましては、まず商品構成を見直し、ウイメンズ商品を拡充します。また、ジーユー商品の強みを訴求し、競合と差別化するために、ベーシックな商品群についてはコア商品をさらに低価格化し、ファッション商品はウイメンズ部門を中心に強化をはかります。

経費については、売上に応じて販管費を削減し、収益性を高める計画です。また、チラシのほかにも、雑誌などの媒体を活用することにより、販促を強化していきます。

1Q 既存店売上高前年比： +20%
営業利益率： 34%

売上が好調な要因

- ・ クイックレスポンス
- ・ レイトデザイン
- ・ 幅広い顧客層の支持
- ・ 新デザイナーのコレクションが好評

高い営業利益率

- ・ 高い値入れ率
- ・ 比較的低い賃借料比率
- ・ インセンティブによる効率的な販売



21

FRフランス事業につきましては、主力のコントワー・デ・コトニエ事業の好調な第1四半期の業績を反映し、業績予想を上方修正いたしました。

コントワー・デ・コトニエ事業の第1四半期の売上高は、既存店が前年比でプラス20%となり、営業利益率も34%と、高い水準を維持しております。

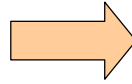
売上が好調な理由としては、
 第一に、追加オーダーから店頭への投入までが6週間で可能な、クイックレスポンスの仕組みが機能していること、
 第二に、生地を事前に確保しながらトレンドをみきわめてデザインを確定するレイトデザインによりヒット率が高く維持できていることがあげられます。

また、コントワー・デ・コトニエはベーシック商品が中心のコレクションですが、適度にトレンドをとり入れ、幅広い年齢層のお客様にアピールできていることも安定的な成長の要因です。
 さらに、2006年秋冬シーズンのコレクションよりチーフデザイナーが変わり、ますます好評を博しております。

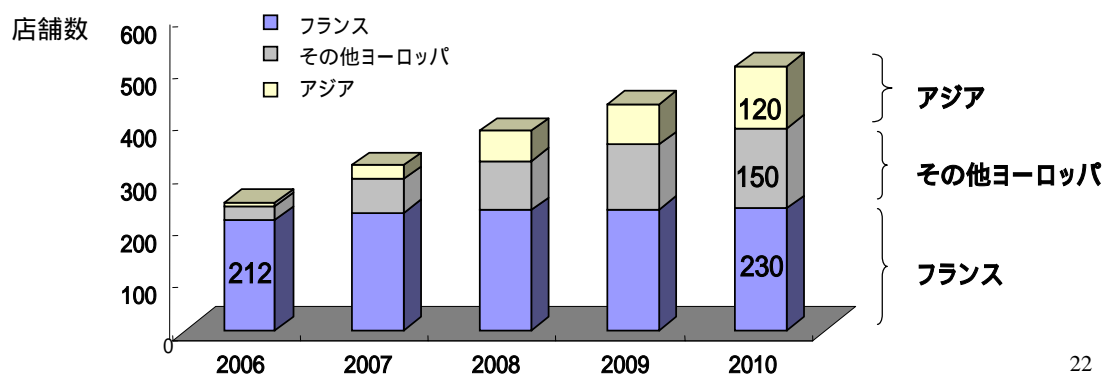
また高い利益水準の理由としては、値入れ率が高いこと、賃借料比率が低いことなどがあげられます。
 販売員への高いインセンティブも、効率的な販売につながっていると考えております。

ヨーロッパ、アジアでの出店を加速

2006年8月期
年商 171億円
店舗数 244店



2010年8月期
年商 約450億円
店舗数 約500店



22

今後のコントワー・デ・コトニエ事業ですが、フランスの既存店の好調を維持しながら、その他のヨーロッパ諸国、韓国や日本などのアジアへの出店を加速することにより、グローバルな店舗網を拡大していきます。

ヨーロッパではすでに、スペイン、ベルギー、ドイツ、イギリス、ポルトガル、イタリアで出店をしております。とくにイタリア・スペインでは計画を上回る実績をあげており、新たな収益の柱に育てていきたいと考えております。アジアでは日本、韓国で出店を拡大していきます。

2006年8月期末の店舗数は、コントワー・デ・コトニエ事業全体で244店舗、うちフランスが212店舗でしたが、2010年までに、その他のヨーロッパ諸国で150店舗、アジアで120店舗の出店を目指しております。これにより店舗数を倍増して約500店舗とし、2006年8月期に170億円であった売上高を、2010年には450億円程度にまで成長させたいと考えています。

連結対象会社別出退店 実績・予想

【単位：店舗】	06年8月 期末	2007年8月期							
		第1四半期 実績				通期 予想			
		出店	退店	純増減	期末	出店	退店	純増減	期末
ユニクロ事業合計	750	35	20	+15	765	96	46	+50	800
国内ユニクロ事業:	720	31	19	+12	732	83	45	+38	758
直営店 ¹	703	30	19	+11	714	82	45	+37	740
大型店	7	7	0	+7	14	20	0	+20	27
標準店等	687	23	19	+4	691	57	45	+12	699
専門店	9	0	0	0	9	5	0	+5	14
FC	17	1	0	+1	18	1	0	+1	18
海外ユニクロ事業:	30	4	1	+3	33	13	1	+12	42
英国:	8	0	0	0	8	2	0	+2	10
中国: ²	7	0	0	0	7	2	0	+2	9
米国:	4	3	1	+2	6	3	1	2	6
韓国:	10	1	0	+1	11	5	0	+5	15
香港:	1	0	0	0	1	1	0	+1	2
ジーユー事業	-	19	0	+19	19	50	0	+50	50
ワンゾーン事業	330	11	12	1	329	22	12	+10	340
コントワー・デ・コトニエ事業	244	22	1	+21	265	64	4	+60	304
プリンセス タム・タム事業 ²	100	4	0	+4	104	28	1	+27	127
キャビン事業	201	18	2	+16	217	30	16	+14	215
アスベジ事業	7	2	0	+2	9	6	1	+5	12
総 合 計	1,632	111	35	76	1,708	296	80	+216	1,848

1 ユニクロ直営店のうち、標準店等にはエキナカ・エキチカのユニクロ小型店も含まれます。

また専門店には、ウイメンズインナー専門店「BODY by UNIQLO」、キッズ専門店「ユニクロ キッズ」を含みます。

2 決算期が異なるため、ユニクロ中国事業及びプリンセス タム・タム事業の店舗数は、8月期末は6月末に、第1四半期末は9月末となります。

23

最後に、ご参考として、

・出退店の一覧表、

また、

・株式会社ユニクロとしての2006年8月期実績数値を

決算期毎に纏めましたので、

ご参照ください。

以上をもちまして、私からのご説明を終わります。

ありがとうございました。

単位：億円

	2006年8月期 株式会社ユニクロ 実績			
	第1四半期	中間期	第3四半期	通期
売上高 (売上比)	1,094 100.0%	2,146 100.0%	919 100.0%	3,936 100.0%
売上総利益 (売上比)	517 47.3%	998 46.5%	440 47.9%	1,829 46.5%
販管費 (売上比)	288 26.4%	566 26.4%	283 30.8%	1,140 29.0%
営業利益 (売上比)	229 21.0%	432 20.1%	157 17.1%	688 17.5%